

平成19年7月6日～9日梅雨前線豪雨ならびに7月14日の台風4号により
鹿児島県南大隅町で発生した土砂災害の現地調査報告

平成19年7月26日
(独) 土木研究所
土砂管理研究グループ
火山・土石流チーム

1. 概要

7月からの梅雨前線による豪雨および台風4号によって、鹿児島県南大隅町では土砂災害が多発した。よって、以下の行程で現地調査に赴いたので、その結果を報告する。

2. 調査時期

2007年7月19日(木)から20日(金)

3. 担当者

独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流チーム

研究員 武澤 永純

交流研究員 鈴木 隆司、松田 如水

4. 調査箇所

鹿児島県南大隅町 船石川(船石川1)、炭屋川(炭屋川2)、芝原川(芝原谷2)、川田原、浜尻
(浜尻川第3小川) ※括弧書きは土石流危険溪流名

調査箇所の位置関係を図1に示す。

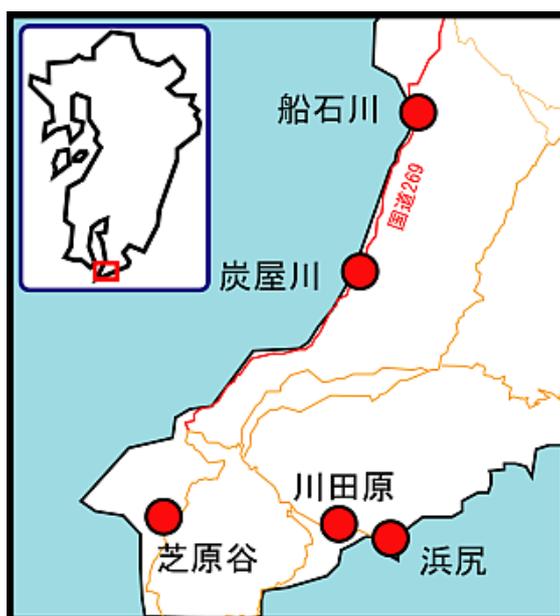


図1 調査箇所概念図

5. 概要

崩壊は国道 269 号線沿いに多発している。

崩壊の規模としては船石川、炭屋川等鹿児島湾側の花崗岩分布地域が比較的大きい傾向にある。

船石川については、平成 2 年にも土石流災害が発生している。今回の箇所と同じかどうかは現在調査中。



写真 1 船石川 道路から船石川を望む。



写真 2 船石川 溪流保全工。水通し部にある礫の直径は 3 m 程度。



写真3 船石川 鋼製セル型砂防えん堤。透過部はB型と思われる。
右岸側の鋼矢板が下流側へ傾いている。



写真4 船石川 鋼製セル型砂防えん堤から上流を望む。



写真5 炭屋川 国道269号の橋を下から望む。



写真6 炭屋川 国道269号から上流にある治山えん堤。
左岸天端の一部が流出し、左岸袖部にクラックが確認できた。



写真7 炭屋川 治山えん堤から上流を望む。礫の直径は最大で約5m。



写真8 芝原谷 氾濫箇所



写真9 芝原谷 氾濫開始地点 右に見えるのは溪流保全工（深さ約120cm、幅約170cm）



写真10 芝原谷 氾濫開始地点から上流部。写真向かって左側の上流に崩壊地がある。



写真 11 川田原地区の崩壊 崩壊長は約 50m



写真 12 川田原地区 崩土が家屋内に流入している



写真13 川田原地区 写真11の右岸側。擁壁の裏から土砂の流出がみられる。



写真14 浜尻地区 第3小川下流の家屋の被災状況。



写真 15 浜尻地区 第3小川の治山えん堤。満査状態であった。



写真 16 浜尻地区 第3小川の治山えん堤から下流を望む。

以上